

論文

世界の中心で愛をさけびつづけられるか？ —メディアツーリズムと持続的利用に関する検討—

天野 宏 司

【要旨】香川県高松市庵治町は、映画「世界の中心で、愛をさけぶ」の撮影が行われたことをきっかけに、ロケ地巡りをするツーリストが出現し、メディアツーリズムの対象地となった。元来、観光地ではなかった「場」が観光資源化されたため、ツーリストの来訪を統計的に把握する手段が存在せず、この傾向を把握するため、一部のツーリストによって行われる「愛の鍵」を懸垂する行為を指標とした結果、次の知見を得た。1) 南京錠を懸垂させる行為は、映画の刺激を受け開始された。2) 鍵を懸ける行為は、映画の刺激のみでは持続し得ず、庵治観光交流館を媒介したいくつかの「若返り策」の成功によって停滞・衰退を回避し、むしろ公開直後より増加した。3) 「愛の鍵」は、行為者にとってのみ有意の日に行われ、かつ、その特定日にくり返し訪問・懸垂が重ねられる。4) 「愛」を誓わない南京錠が登場し、行為の変質・大衆化が確認された。

【キーワード】庵治町、「世界の中心で、愛をさけぶ」、愛の鍵、メディアツーリズム、S.I.T.、持続的利用

1. 研究の目的と課題

1990年代初頭に、バブル景気やリゾート法を背景として、わが国の各地でリゾートブームが発生した。結果的には、リゾートブームは、さまざまな弊害を爪痕として残し、開発型のマスツーリズムは否定的な視点でとらえられるようになった。これにより、持続可能な観光(sustainable tourism)へのシフトが求められていく。この方策のひとつとして、いわゆるニュー・ツーリズム(またはオルタナティブ・ツーリズム)が導入され、この過程で、メディア・ツーリズム¹⁾ないし、コンテンツ・ツーリズムと称される、新しい観光形態への注目が高まっていった。

映画や小説などの舞台に多くの観光客が訪れる現象は、これらのメディアの普及・利用とともに多く確認される。古くは歌枕に取り上げられた地名・地物が名所化し、やや乱暴な言い方をすれば、和歌というメディアを媒介したツーリズムが成立していたとも言える。

1970年代の知床ブームは、1975年に国道344号、いわゆる「知床横断道路」の開通というインフラストラクチャーの整備が完了したこともさることながら、1960年公開の映画「地の涯に生きるもの」の上映と、主演の森重久彌により楽曲制作された「知床旅情」の影響が大きい。「知床旅情」は、1970年に加藤登紀子の歌声によりヒットし、1970年前半の知床ブームにつながったケースなどはメディアの影響による観光への刺激の典型的な事例である。

しかしながら、メディアの影響により刺激を受けた観光地は、メディアの影響力の強さに比例して強い影響を受け、急激に観光需要が増大するものの、そのブームの終焉とともに訪問客が減少し、持続的利用が困難な問題を内包する。例えば、TVドラマ「北の国から」の舞台である北海道富良野市は、同ドラマが断続的に放映されていた1981～2002年の間は、図1に示すように観光入込客数は増加傾向にあるものの、放映終了後は激減した。

バトラー(R.W.Butler)は、観光地のライフサイクルを、1.探検段階、2.関与段階、3.開発・発展段階、

4. 成熟段階、5. 停滞段階を経て、その後は、さらなる刺激の有無で若返り策が功を奏するか、衰退段階を迎えるかすると分類した(図2)。富良野市の場合、TVドラマ「北の国から」の放映が開発・発展段階への誘導を果たし、急激に観光地としての成長を迎えたものの、放映の終了とともに、急激に停滞段階・衰退段階へと移行したといえる。

一般的な観光地の場合、バトラー・モデルのどの段階に位置づけられるかは、同時代的には検証が困難である。しかしながら、メディアによる刺激により成長を遂げた観光地は、その刺激の消失が停滞段

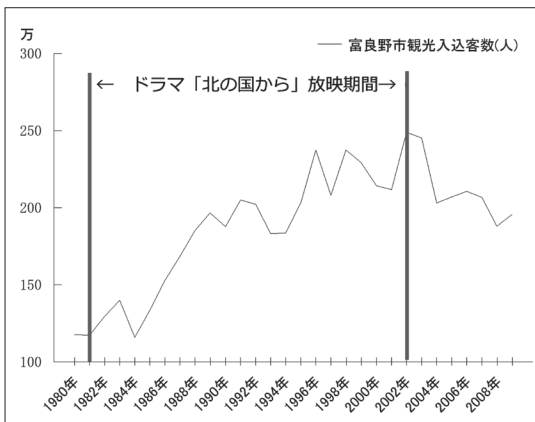


図1 富良野市における観光入込客数の推移
各年度「北海道観光入込客数調査報告書」より天野作図

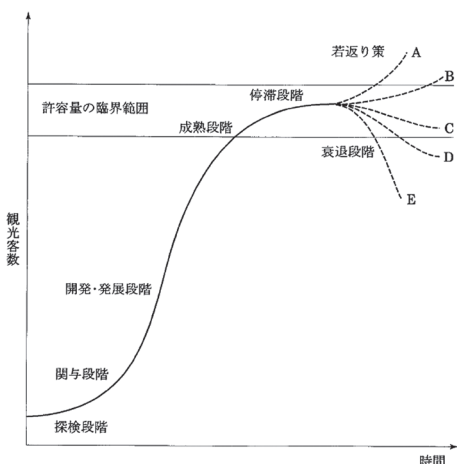


図2 観光地のライフサイクル
中崎茂 (1998) より引用

階へのターニングポイントに想定されうることから、メディアの刺激により新たに創出された観光資源に対する需要の持続性について検討が容易であろうと考える。

本稿は映画「世界の中心で、愛をさけぶ」のロケ地として、メディア(映画)による刺激を受け、ロケ地巡りという形態のメディアツーリズムの対象になった香川県高松市庵治町を対象に、“ロケ地”という新たな観光資源の利用について持続性を検証する。

2. 調査地域概要と調査方法

2.1. 調査地域概要

上述の目的を達成するために、本稿では香川県高松市庵治町(旧木田郡庵治町。以下、庵治町を使用する)を対象として分析を行う。この地は、2004年5月公開の映画「世界の中心で、愛をさけぶ」のロケーション撮影(以下、ロケ)が行われた場所である。この受け入れを香川県フィルムコミッション²⁾が媒介し、2003年9月～12月の計24日間³⁾のロケが香川県で行われた。ロケは香川県内各地に及ぶが、劇中重要なシーンの多くが庵治町で撮影され、町内各地に、映画に登場する場所が点在している(図3)。なかでも王の下沖防波堤、皇子神社境内のブランコを筆頭に、専修院、谷商店、桜八幡宮と宮ノ下橋などは、劇中シーンから、「実」空間を特定

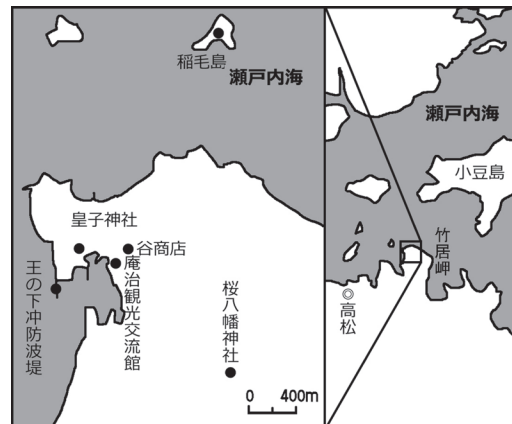


図3 調査対象地域

天野：世界の中心で愛をさげびつづけられるか？

することが容易であり、映画公開後から、これらを訪問するファンの姿が確認されるようになった。

映画「世界の中心で、愛をさけぶ」の制作サイドと、地元との関係は、非常に良好である。ロケに際しては、エキストラとして地元住民が参加したことはもとより、これらのロケ地を紹介する「映画ロケ地ガイド」を香川県観光協会が作成する際に、映画「世界の中心で、愛をさけぶ」ほか、前後に公開された話題作の主要ロケ地を地図上に示し、現地の写真と映画のシーンに加え、制作当時の風景などを掲載・解説した。通常、映画の劇中場面を使用するには、著作権・肖像権などの処理が必要で、使用の許諾が得られないケースが多いものの、香川県の場合、観光協会が事業主体としてFCの運営が行われているため、映画公開・DVD販売のプロモーション期間中については、県の観光振興という公共の目的に限定して使用することを条件に使用が認められた。このような集客プロモーションが功を奏し、映画公開の2004年5月から翌2005年「4月までの1年間に庵治町のロケ地を訪れた人は推計52,650人とされ」⁴⁾、2004年度の庵治町の入込客数は対前年比149.4%にもなった。

このほか、2005年12月には、実際に映画の撮影時に「雨平写真館」として撮影用に組まれたセットが、庵治町内で移築・流用され、庵治観光交流館⁵⁾という立ち寄り施設として開館した。

2.2. 調査方法

メディアツーリズム研究において、もともと観光資源として利用されていなかった「場」が、メディアの刺激により急遽観光資源化されることが多いため、訪問者数を正確に把握することが困難であり、入込客数の把握に工夫をこらしつつ研究の地平を広げようとしている⁶⁾。

本稿が対象とする、庵治町には多くのロケ地が散在し、ここを訪れる「ロケ地巡り」が映画公開後から顕在化し、地元自治体ほかにも「映画ロケ地ガイド」の制作や、案内板、道路標識などを設置して誘導してきた。中でも王の下沖防波堤とそれを見下ろ

す皇子神社の境内は、来訪者の多くが立ち寄る地点である。特に、皇子神社境内公園は、劇中で主人公がブランコに乗るシーンがあり、これを追体験できる重要な「場」とあるとともに、純愛映画の登場人物たちのように、カップルで「二人の永遠の愛を誓う」ための行為として南京錠を皇子神社境内のフェンス・ブランコ・街灯などに懸垂させる行為が自然発生的に行われるようになっていった(図4・図5)。

南京錠を「二人の永遠の愛を誓う」ために懸垂させる行為の発生がいずれにあるのかは、詳細は不明である。山根康広は自身のHP⁷⁾で、1995年に発表した楽曲「ALWAYS -いつまでも変わらない-」を神戸市再度山のビーナスブリッジをモチーフに作り、このことがきっかけとなって「二人の永遠の愛を誓う」南京錠を懸垂させることが社会現象となったと、主張している。しかしながら、神奈川県大磯町・平塚市にまたがる高麗山公園内の湘南平テレビ塔が発祥との説もあり定かではない。いずれにせよ、今日では日本各地で同様の事象が確認され、意図的に地元の側で観光振興のために誘導しているケースも散見される。

また、海外事情を垣間見ると、グアムの恋人岬は日本人観光客による上記事象の輸出事例であろうとしても、インターネット上の検索結果では、パリ(フランス)、ローマ(イタリア)、ベニス(イタリア)、フィレンツェ(イタリア)、モスクワ(ロシア)、キ



図4 皇子神社境内の「愛の鍵」
2008年10月26日・天野撮影



図5 庵治町・皇子神社の「愛の鍵」
2010年2月20日・天野撮影



図6 ウルムチ・紅山公園・鎮龍塔の「愛の鍵」
2011年8月15日・天野撮影

余談ながら、日本ではひとつの鍵に、恋人たちの名前が連記されるのに対し、ここではふたつの鍵にそれぞれ氏名を書いていることが特徴であった。

表1 調査次と「愛の鍵」

調査次	調査日	懸垂個数	日付特定数
第一次	2007/03/28	482	266
第二次	2008/08/27	802	439
第三次	2008/10/26	1,015	457
第四次	2009/09/21	933 ¹⁾	530
第五次	2010/02/20	1,365	816
累計		4,599	2,508

注1) 前回調査より「愛の鍵」の数が減少している。これは、フェンスの改修工事などにより移設された分を確認できなかったためであり、第五次調査でその所在を把握した。

エフ(ウクライナ)などでも確認され、発祥の地として、ペクス・ピーチ(ハンガリー)の1980年代を挙げる情報も存在したが、いずれが起源なのか、

または多元発生的ものなのかは、不明である。論者の管見の限りでは、ウルムチ(中華人民共和国)の紅山公園鎮龍塔(図6)、ウラジオストック(ロシア連邦)の鷺の巣展望台などでも確認され、洋の東西を問わず「二人の永遠の愛を誓う」行為は、南京錠に託されるようである。

庵治町の場合、当初皇子神社境内の転落防止用フェンス金網部分、ブランコ・鉄棒などの遊具、街灯などに多くの「愛の鍵」が懸垂されたものの、「愛の鍵」の重みや腐食しやすい真鍮製の南京錠による錆害などにより、頻繁に金網の張り替えが必要なこと、遊具が使用不可能な状態になるまで鍵が懸けられたことなどを理由に、現在では、庵治観光交流館中庭の専用スペースへの懸垂を誘導している。

「二人の永遠の愛を誓う」南京錠(以後、「愛の鍵」)には図5に見られるように、①二人の名前、②誓いの言葉に加え、③懸垂日とおぼしき日付⁸⁾が記載されていることが通例である。すなわち、本稿では、これらの「愛の鍵」に記載された日付を金石文と見なし、1つずつ採録することにより、いつ「愛の鍵」が懸垂されたかを把握する。とともに、定期的な同様の調査を継続することにより、「愛の鍵」の増加傾向を(場合によっては減少をも)補足可能であると考え、その懸垂個数の推移を分析することにより、映画「世界の中心で、愛をさけぶ」による刺激で発生した庵治町における観光需要が、その公開終了後も持続的に存在しているのかを検討することとする。

以上の観点から論者は、2007年3月28日の第一次調査以降、2010年2月20日まで、都合5回の現地調査を実施し、①皇子神社境内、②庵治観光交流館中庭、③庵治観光交流館保管分(フェンスの張り替えなどに伴い撤去されたもの)、以上3地点に所在する「愛の鍵」を悉皆調査した(表1)。

表1に示すように、過去5回の調査の結果、のべ4,599個の「愛の鍵」を捕捉した。個別の「愛の鍵」に対し、①調査次ごとの固有番号を付番し、②懸垂日、③懸垂状態、④懸垂場所、⑤特記事項の5情報を記録する。理屈の上で言えば、第一次調査時点で存在していた「愛の鍵」は、第五次調査までのあいだ、

撤去されない限りその場所に存在し続けるはずである。例えば、「2008年6月8日」の日付が記載され、ハンゲル⁹⁾で名前が記載された鍵は、第二次調査(2008年8月27日)の際に、庵治観光交流館中庭で初見され、この「愛の鍵」に、②204の固有番号が付された。以後、第三次調査時点には③210、第四次調査では④226の番号で、いずれも同地点に所在していることを確認した。しかしながら、第五次調査時には、庵治観光交流館中庭の「愛の鍵」は新たに懸垂するスペースを確保するため、既存のものを撤去していたため、所在が同館倉庫内へと移動している。第五次調査において、⑤0537の固有番号を付した鍵が、①懸垂日や⑤特記事項から、②204(③210、④226)の「愛の鍵」と同一の物であると把握が可能となる。このように、各調査次間で個々の「愛の鍵」の同一性の確認をすることにより、時間経過にともなう純増や消失をも把握可能となる。

しかしながら、「愛の鍵」に記載された懸垂日や特記事項は、海辺にあることから、潮風による錆の発生や、紫外線による劣化により比較的短時間の内に判読不能になりがちである。これを軽減するために、懸垂場所に関する情報を密に採録し、皇子神社境内については42ブロック、庵治観光交流館中庭に関しては3ブロック、同館倉庫内保管分に関しては収納容器ごとに6ブロックに細分化して④懸垂場所を記録した。

以下、次章において、入手されたデータに基づいて分析を行う。

3. 「愛の鍵」は永遠か？

3.1. 懸垂行為の持続性に関する検討

表1に示すように、のべ4,599個の「愛の鍵」のうち、懸垂日を把握できたものは、のべ2,508個である。個々の「愛の鍵」から採録された①懸垂日、②懸垂状態、③懸垂場所、④特記事項の突合による、同一性の確認作業の結果、懸垂日の確認が出来た「愛の鍵」が1,020箇、年・月・日の何れかの情報を欠くもの24個を確認した。

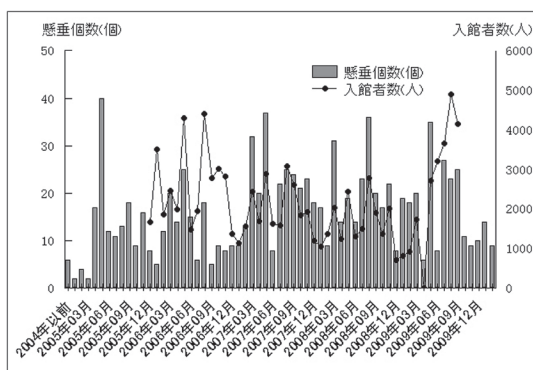


図7 「愛の鍵」の懸垂個数の推移と庵治観光交流館入館者数の推移

表2 庵治町とメディア露出

年月日	事項
2001/4/	片山恭一著『世界の中心で、愛をさげぶ』(原作)出版
2003/8/22	ロケに関する記事(スポーツニッポン)
2003/9/15	現地ロケ実施(～12月3日)
2004/1/	漫画版掲載(～2月)
2004/5/8	映画公開
2004/7/2	TV版放送(～9月10日)
2004/7/24	ロケ地写真展(～09/26・於庵治町25,000人來場)
2005/8/	舞台版上演(～9月4日)
2005/9/29	映画版:地上波 On Air
2005//	韓国版リメイク映画制作
2005/12/23	庵治文化会館(現観光交流館)オープン
2006/8/	韓国版「僕の、世界の中心は、君だ」日本公開
2007/2/9	庵治文化会館で南京錠の販売開始
2009/3/31	庵治文化会館閉館
2009/5/5	写真館(カフェ)リニューアルオープン
2009/6/7	庵治観光交流館全館開館

懸垂日と想定される日付は、2003年2月4日～2010年2月20日(第五次調査実施日)に及び、上記期間中の「愛の鍵」の懸垂個数の推移を示したものが図7である。併せて、同期間中に主立ったメディアによる刺激を表2にまとめた。

図7について、表2を参照しながらみると、「愛の鍵」を懸ける行為は、映画が公開された2005年

5月に40個／月の懸垂が確認され、活発化したものの、以降は急速に減少する。7月からのTV版の放映は十分な刺激になり得ず、9月の映画の地上波放映が若干の刺激になった程度である。この傾向が大きく変わるのが、2005年12月に立ち寄り施設として庵治文化館（現・観光交流館）が開館したことである。これ以降、庵治観光交流館の入館者数の推移と、「愛の鍵」の懸垂個数がほぼ連動して増減するようになる。日付の判明しない「愛の鍵」の存在も考慮すると、庵治観光交流館入館者数の約1.0%が「愛の鍵」を懸けていると推定できる。

庵治観光交流館では、2007年2月から館内で南京錠を販売するとともに、同年8月には皇子神社境内への懸垂行為を抑制し、同館施設へ誘導すべく看板の設置を行った（図8）¹⁰⁾。庵治観光交流館は、2009年3月にリニューアルのため一時閉館し、5月に再オープンしたが、この月の懸垂個数は35個と映画公開直後に迫る勢いであった。

図9は、懸垂個数を年ごとに再集計したものである。結論から言えば、庵治町における「愛の鍵」の懸垂行為は、映画「世界の中心で、愛をさけぶ」による刺激を受けて始まるものの、映画の公開直後からその刺激は弱まり、懸垂個数は激減した。むしろ、「愛の鍵」を懸ける行為が広く浸透するのは2007年以降で、庵治観光交流館の開館（2005年12月）、南京錠の販売（2007年2月）、リニューアル（2009年5月）などの「若返り策¹¹⁾」が功を奏し、「愛の鍵」を懸ける行為は、依然として持続して行われている。

3.2. 懸垂行為の特徴と「意味」

前節では、「愛の鍵」懸垂個数を2005年から2010年2月までのミクロな視点から把握を行い、「愛の鍵」を懸ける行為が、映画公開時点の瞬間的な現象ではなく、今日も継続的に行われていることを確認し、その原因として、庵治観光交流館を中心としたさまざまな「若返り策」が成功していることを明らかにした。

本節では、前節の作業により特定された懸垂日に着目し、懸垂行為の特徴を明らかにする。



図8 皇子神社のフェンス改修と、「愛の鍵」の誘導
2008年8月27日・天野撮影

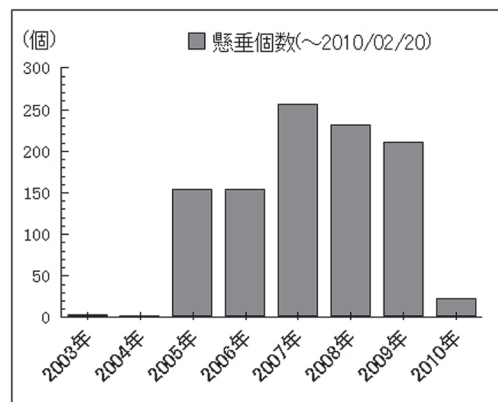


図9 「愛の鍵」の年別懸垂個数の推移

図10は、「愛の鍵」の懸垂日を曜日別にまとめたものである。圧倒的に日曜・祝祭日に懸けに来ることが多い。月別で見た場合（図11）、5月・8月に集中し、ゴールデンウィーク・夏休みの休暇を利用して、「愛の鍵」を懸けに来ていることが想定される。実際、懸垂個数の多い特異日を抽出した表3からも、「愛の鍵」の多くが、ゴールデンウィークあるいは、お盆のような連続して休暇が取得できるタイミングに集中している。採録作業時の定点観測の限りでは、来訪者のほとんどは、20代以下の若年層で、かつ、比較的短時間の滞在で帰ることから、庵治町におけるロケ地巡りは、立ち寄り・通過型の観光行動の一部として行われていると想定される。

「愛の鍵」の懸垂日を特定する作業で、気がついた点が3点ある。ひとつは、特異日としてクリスマ

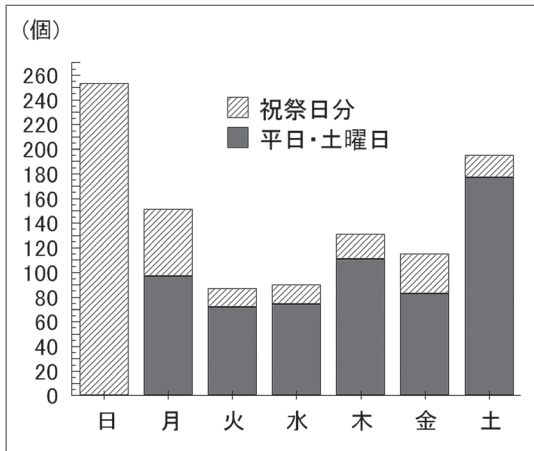


図10 「愛の鍵」の曜日別懸垂個数

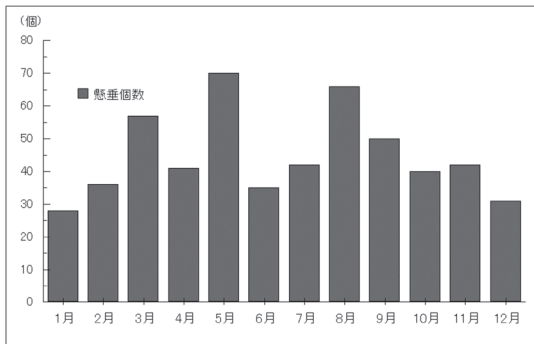


図11 「愛の鍵」の月別懸垂個数

スイブ(12月24日)、バレンタインデー(2月14日)に多くの懸垂行為が集中していることである。そもそも「愛の鍵」を懸ける行為は、二人の愛の確認作業であり、恋人達のイベント日として、上記2日は神聖視されていると想定される¹²⁾。

もうひとつが、①複数の日付の記載や、②「7ヶ月記念」、「2年記念日」などのように、恋人達二人にとってのみ、意味のある日付が記載されているケースである。前者は、「2009年2月22日 START LOVE¹³⁾」のように二人のつきあい始めた日や、「平成20年7月25日プロポーズ¹⁴⁾」、または「2007年12月1日に結婚します¹⁵⁾」と、二人の交際のメモリアル、あるいは将来の理想とする姿を「愛の鍵」に投影しているケースである。将来に向けた記載としては、「将来子供と一緒に来るぞ¹⁶⁾」、「結婚したら鍵はずしに来ようね¹⁷⁾」など、二人の

表3 懸垂行為の特異日

日付	懸垂個数
05月05日(こどもの日)	26
05月03日(憲法記念日)	24
05月04日(国民の祝日)	22
12月24日(クリスマスイブ)	14
05月06日(国民の祝日)	13
08月16日	11
02月11日(建国記念日)	11
08月13日	10
08月15日	10
09月10日	10
02月14日	7

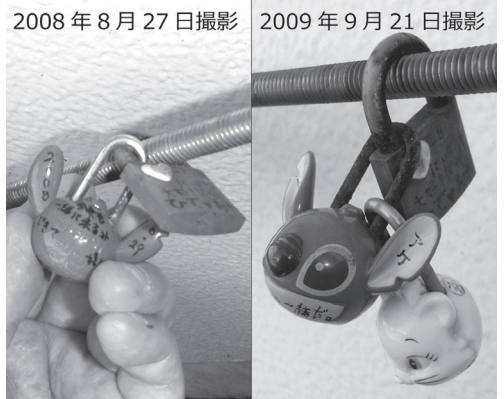


図12 「愛の鍵」の連結・増結現象
天野撮影

愛の継続と再訪を期す内容が確認される。

図12は、第二次調査と第四次調査の際に、庵治観光交流館中庭で撮影された同一の「愛の鍵」である。

第二次調査時点で南京錠と、そこに絡められた青い鍵の二つが確認され、この状態は第三次調査でも同様であった。これが第四次調査では、白い鍵が更に増え計3個の「愛の鍵」が連結して懸垂されている。この連結は、いかになされたのかを、懸垂日から復元する。3個の鍵はそれぞれ第五次調査の際に、以下のように付番され、「」内に挙げた誓いの言葉が確認される。

南京錠：⑤ 0493、2007/06/27

「一生に□□大好き☆(□は判読不能)」

青い鍵：⑤ 0494、2008/06/27

「ずっと一緒だよ」

「今年も一緒に来るコトができて好き」

「2人の宝物」

白い鍵：⑤0495、日付不明

「□□ヨロシクね！！」

以上から、まず、2007年6月27日に⑤0243が、庵治観光交流館中庭に懸垂された。次いで、翌2008年6月27日に⑤0494が連結される。さらに、二人の順調な交際を「2人の宝物」と確認し、1年間のメモリアル（「今年も一緒に来るコトができて好き」と、愛の永続性に対する期待（「ずっと一緒だよ」）が、⑤0494に託され、昨年二人で懸垂した「愛の鍵」に絡めるように懸垂された。第二次・三次調査はその後に実施・記録され、第三次調査の実施日である2008年10月26日～第四次調査の2009年9月21日までの間、おそらく2009年6月27日に、さらに二人の順調な交際を再度確認するために⑤0495が増結されたと想定される。

同様のケースは、「3年2回目¹⁸⁾」、「6回目¹⁹⁾」のほか散見される。中でも表4は、ある恋人たちの1年間のメモリアルが如実に示されている。おそらく、2008年7月6日につきあい始めることになった二人は、毎月皇子神社境内を訪れ、前月に懸垂した「愛の鍵」を確認するとともに、新たな「愛の鍵」を懸垂し続けてきた。「初の平日お泊まり」の記載から推察するに、親との同居・監督下にあり、自由に外泊が出来ない若年層のカップルが想定される。来訪時間も「15時」「23:26」と、一定しないが、「一ヶ月記念」・「祝一年」と、特に強調したであろう記念の日以外は、土日を利用しての訪問を重ねていることから、二人の内、少なくともどちらか一方は、教育課程ないし正規雇用に就いているのであろう。3ヶ月の記念に親には内緒のお泊まりデート、5ヶ月目と10ヶ月目と11ヶ月目にはケンカと、順調かつ波乱万丈な交際を重ねた二人は、交際開始からちょうど1年目の記念日に「来年籍を入れる」と結婚を決意した²⁰⁾。

「6月21日」あるいは、「7月6日」がいかなる意味を有し、いかほどの重みを持つのかは、論者に知

るよしもないが、恋人たちにとってのみ有意の日付に再訪を重ね、懸垂行為を継続することで、「愛の鍵」の永続性に、恋人達の愛の永続性が仮託された。再訪し、繰り返し「愛の鍵」を懸けることは、映画公開後も懸垂行為が持続・増加している（図9）一因であろう。

4. ふたたび「愛の鍵」は永遠か？

前章では、映画の公開に刺激を受け「愛の鍵」を懸ける行為が発生し、その後庵治観光交流館を中心とした「若返り策」や、恋人達にとっての記念日に再訪し、懸垂行為を繰り返すことで、図9に示すように、映画公開から時間的経過の後も、持続・増加している要因であると分析をした。

堅牢な錠前の永続性に、二人の愛の永続性が仮託された「愛の鍵」には、表4に示すように、読んでいるこちらが赤面するほどに、二人の愛のメモリアルが綴られてきた。しかしながら、南京錠には、「二人の永遠の愛」以外の願いも託されてきた。本章では、鍵への記載事項に着目し、「愛の鍵」への願いを把握する。

皇子神社境内および庵治観光交流館中庭に懸垂された鍵に、「二人の永遠の愛」以外の願い事を記載した事例は、第一次調査時点から確認されている。図13は、その中で違和感を強く感じさせられたみつつの鍵である。

- a：「彼氏ができますよーに・幸せなレンアイができますよーに」
- b：「就職できますようおに・あと、イイ人が現れますよおに。」
- c：「ダイエット成功して42kgになれますよーに・肌もツルツルに」

以上、3つの鍵は「レンアイ」・「彼氏」を求め、「ダイエット」の成功による自身の美への希求をし（おそらくは、前二者と同様に彼氏の獲得を求め）ているように、恋“愛”成就を願う「愛」の鍵であり、

天野：世界の中心で愛をさげびつづけられるか？

表4 「愛の鍵」にみる愛の軌跡

第五次調査 固有番号	懸垂日	記載事項 (懸垂者の名前は省略)
⑤ 0287	2008/08/06	一ヶ月記念 一生一緒相思相愛ケンカなし
⑤ 0064	2008/09/06	2ヶ月記念 お好み焼き食べた。豚玉□□も気持ち悪る
⑤ 0057	2008/10/06	3ヶ月記念 初の平日お泊り
⑤ 0097	2008/11/15	4ヶ月
⑤ 0327	判読不能	5ヶ月 ケンカしても嫌いにならんよ●●の全てが好きニャン ●●ちゃん仲よしラブラブ
⑤ 0100	判読不能	15時 半年記念日来年も来ます。ズット一緒
⑤ 0234	2009/02/14	7ヶ月記念 ずっと仲よしでおるよ
⑤ 0171	2009/03/15	8ヶ月記念 大阪行ってきたヨ。ケンカなくユニバ行けたよ♪次は ディズニーランド行こう
⑤ 0120	2009/04/28	23:26 9ヶ月 へたらうんかったい(原文ママ)ズット愛しとるよ。 ズットらぶらぶ
⑤ 0098	2009/05/17	10ヶ月きねん 今日は朝からケンカしてきたよ。でももう仲良し。 愛しと〜ヨ。
⑤ 0125	判読不能	11ヶ月 朝はゴメンネ今月も来月もずっと仲よしボカアホ(原文マ マ)のせいで今日になっちゃった
⑤ 0973	2009/07/06	祝1年 来年には籍入れるよ。 ずっと一緒。今日もラブ②だぜ 来月からは宇多津 大福 やっと1年。まだ1年。

□□は判読不能箇所・●●は名前につき伏字

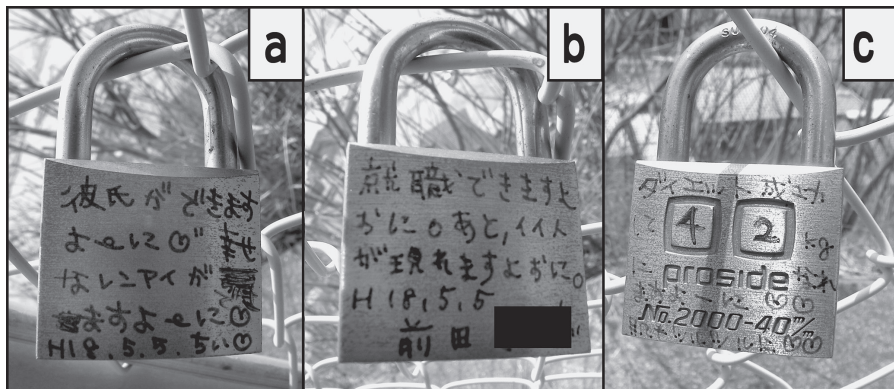


図13 独りで懸ける「愛の鍵」

2007年3月28日・天野撮影

フルネームが記載されているため個人情報保護の観点から一部加工をした。

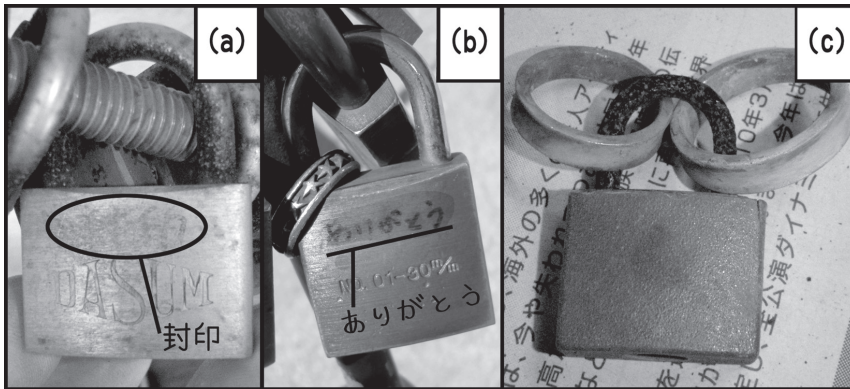


図14 愛の終焉と「愛の鍵」
2010年2月10日・天野撮影



図15 「愛の鍵」とご縁玉
2010年2月10日・天野撮影



図16 他律的な「愛の鍵」
2010年2月10日・天野撮影

同様のものは、第二次調査以降も「かわいい彼女ができますように²¹⁾」などが確認される。

一方で、図14に示すように (a)「封印」の字とともに南京錠そのものを赤く塗り込めた鍵²²⁾や、(b)「ありがとう」の文字とともに指輪がひとつ連結した鍵²³⁾、(c)指輪がふたつ連結した鍵²⁴⁾など、恋“愛”の区切りを暗示する「愛”の鍵”も確認された。

恋“愛”成就を願う場合も、恋“愛”の区切りをつけるケースも、ともに「愛”の鍵”たり得るに十分な要素を含んでいるが、懸垂行為の始まりから時間が経過するにつれ、「愛”の鍵”に仮託される願いや、行為の本質的な意味が変化をしてきた。

第一のケースは、南京錠の堅牢性に依存して、「永遠の友“愛”」を誓うケースであり、この事象は第一次調査から確認されるため、比較的初期から登場している。例えば、「一生友達」以下、女性5名連記された鍵²⁵⁾や、「友情一生不減 女3人おだんご sisters²⁶⁾」などが存在する。男女間の“愛”ならぬ、同性間の友“愛”も広義の愛ととらえれば、第一のケースは「愛”の鍵”と認定し得る。

第二のケースは、ロケ地が神社を祈る場として変質して行くケースである。「家庭円満²⁷⁾」・「家内安全すき²⁸⁾」など、あたかも神社仏閣への願文のごとき記載がなされるほか、お賽銭のごとき五円玉が

天野：世界の中心で愛をさげびつづけられるか？



図 17 「愛」のリラクマ
2009年9月21日・天野撮影



図 18 「愛」を願わぬ鍵
2009年9月21日・天野撮影

鍵に附され「祝結婚」の記載がなされた南京錠²⁹⁾(図15)などが登場した。第三のケースとして、自身の将来に対する誓文・願文が登場する。例えば、「日本一の筆職人になるけん³⁰⁾」、「看護師になれますように³¹⁾」のように、恋愛とは全く無関係な文言が、南京錠に記載される。

最後のケースは、論者にはとうてい理解不能なケースである。図16をよく見ると、「愛の鍵」を解錠するための鍵が無造作につけられている。二人の愛の行方を他者に委ねているのであろうか？図17

は、南京錠ですらなく、単にマスコット³²⁾がふたつ脆弱なボールチェーンでぶら下げられている。案の定5ヶ月後には所在が不明になっていた。これらは、南京錠の有する堅牢性・永遠性などを無視した行為であり、元々の「永遠の愛を誓う」行為から大きく逸脱しているといえる。図18に至っては、「ギャルのパンティおくれ ●●ひとり³³⁾」と、1980年代のヒット漫画「ドラゴンボール」中に登場するキャラクターが、神龍にしたお願い事とおぼしき台詞が書かれている。このレベルになると、真なる願いではなく、単なるジョークに過ぎなからうか？前述したように論者には解釈不能である。

ともあれ、「二人の永遠の愛を誓い」鍵を懸ける行為は、さながら宗教が土着の信仰と相まみえ、変質していくかのごとく、様々な思いや願い、誓いを取り込んで変質し、大衆化しながら定着しているようにみえる。「愛」とは無縁ながらも懸垂する行為へそのものが意味ある行為に拡大したことが、映画に触発されざる訪問客の誘因として、今なお鍵を懸ける行為を持續させていると言えよう。

5. おわりに

メディアの刺激により、新たに観光資源化され、ロケ地巡りというメディアツーリズムの対象地に包摂された香川県高松市庵治町において、誘引力の持続性を検証するべく、訪問者が「二人の永遠の愛を誓う」ために懸垂させた南京錠(「愛の鍵」)を指標として分析を行った。もともと観光施設ではないところに、新たに押し寄せる観光客は、観光統計の対象となりにくく、彼らの来訪を可視化する手段として、「愛の鍵」に記載された情報を金石文とみなしたところ、次の各点が明らかになった。

- 1) 「愛の鍵」を懸ける行為は、映画の刺激を受け開始された。
- 2) 鍵を懸ける行為は、映画の刺激のみでは持続し得ず、庵治観光交流館を媒介したいくつかの「若返り策」の成功によって停滞・衰退を回避

し、むしろ公開直後より増加している。

- 3) 「愛の鍵」は祝祭日に多く懸けられ、特に大型連休・お盆期に集中している。定点観測の結果とあわせ、立寄型・通過型の観光形態が採られている。
- 4) 「愛の鍵」の懸垂は、恋人たちにとって意味のある特別な日に行われ、かつ、その日にくり返し訪問・懸垂を重ねることが確認される。
- 5) しかしながら、元来「二人の永遠の愛を誓う」ための南京錠は、その本質的な意味合いを減衰・喪失させ、雑然とした願い・誓い・欲望を仮託される存在へと変質してきた。

結論として、純愛映画による刺激を受け、メディアツーリズムに包摂された庵治町において、依然その効果は持続している訳だが、今後検討すべき課題も依然多く残された。資料の面からは、「愛の鍵」を金石文と見なしうるものの、金石文ほどの永遠性は有さず、錆損や退色などにより、記載された文言が半年ほどで読めなくなることが多い。定期的かつ短期サイクルの調査を継続的に実施しないと、最も重要な懸垂日に関するデータが把握できなくなる点は、同様の研究をする際に制約となる。また、懸垂され、固定された「愛の鍵」から必要情報を抽出する作業は、採録者の技量や資料収集環境による誤差を生じやすい。手書きの癖のある文字を読む必要があることに加え、退色した文字は光線の加減で判読できたり・出来なかったりする。フェンスに固定されている状態ではとうてい読めなかった文字が、庵治観光交流館倉庫に移されたことにより、表面の汚れをぬぐいさまざまな角度から眺めることでかろうじて判読可能となることも多く、調査による資料収集の精度をいかに担保するかが課題である。このような課題を有しつつも、本研究はいわゆる「萌絵馬」の類も資料とした研究へ可能性を広げた。

本質的な課題としては、「愛」を誓わない南京錠の登場・増加をどのように評価するか? は、慎重な検討が必要であろう。つまり、ロケ地を巡る・「愛の鍵」を懸ける行為はメディアツーリズムに包含さ

れようが、「愛」を誓わない鍵を懸ける行為は、メディアツーリズムの中に含まれるのであろうか? 地域にとっては、両者ともに観光客であり、歓迎される存在であろうと想定するが、S.I.T.の観点からすると、目的の大衆化は“Special Interest”とは対極にある。残念ながら、論者は、今すぐこの点を言及する見識を有さない。今後さらなる事例研究の蓄積を以って検討を続けることを約し、本稿を結ぶ。

謝辞

本稿の着想は、2007年3月に駿河台大学文化情報学部を卒業した浅野靖喜君の卒業研究にある。浅野君は、卒業研究でFC(フィルムコミッション)の活動と観光振興についていくつかの事例を比較検討し、その対象のひとつが、本稿で取り上げた「世界の中心で、愛をさけぶ」のロケ地、庵治町であった。浅野君とは、卒業式の翌日に四国へ向かうフェリーに乗り込み現地へ向かった。もう時効であろうから告白すると、既に脱稿している彼の卒業研究にとって、現地調査の必要性は皆無であり、実は論者が翌日に控えた教務委員会を逃れる口実であった。

船中・高松市内と2泊を経て、ようやくたどり着いた庵治町で目にした光景が、皇子神社境内で鈴生りになっている「愛の鍵」であった。冷やかし半分で、それらを手にしてみると、日付が書いてある。ここはフィールドワーカーの悲しい性。二人でせっせと野帳に記録を採ったのが第一次調査であった。

続く第二次調査は、ゼミ生諸君と四国に合宿に行った最終日に、夜行列車の出発まで8時間ほど生じた空き時間をつぶすために現地に赴き、記録を採ったにすぎない。この2回の偶然なくして、本稿は脱稿どころか着想すらあり得なかったであろう。改めて現地調査を手伝ってくれた浅野靖喜君、新井由美君・船木夢子君に謝意を示す。

もちろん、度重なる怪しげな調査を快く迎え入れてくれた、庵治観光交流館スタッフの皆さま、加えて、各種資料提供に便宜をお図り頂いた、高松市観光振興課の岩崎幸二様には、卒業生諸君に数倍する

謝意を表します。

末筆ながら、「愛の鍵」を懸けたすべての恋人たちに幸あらんことを…

参考文献

Butler,R.W.(1980)：“The concept of A Tourist Area Cycle of Envolution: Implication for Management of Resources,” Canadian Geograoher,Vol.24,No1,pp.5-12.

中原茂 (1998)：観光地域の発展と衰退、流通経済大学社会学部論叢 8 (2)、pp.97～111.

西岡久雄 (1996)：持続可能な環境と観光開発、文化情報学 3 (2)、pp.209-218.

注

- 1) 映画、ドラマ、アニメーション、小説などの舞台を訪問する行為、またはこれらを題材とした観光振興策全般を本稿ではメディア・ツーリズムと定義する。コンテンツ・ツーリズムが、同義の言葉として使われることもあり、また、映画に限定してフィルム・ツーリズム、アニメーションに限定したアニメ・ツーリズムなどの語も用いられることもあるが、本稿ではより広義のメディア・ツーリズムを用いる。
- 2) 香川フィルムコミッションは、2001 (平成 13) 年 4 月に設立された。2003 年からは、社団法人香川県観光協会を事業主体として、①香川県の知名度の向上、②集客力を強化することを目的として、映画・テレビ・コマーシャルフィルムなどのロケーション撮影の誘致・支援を行っている。
- 3) 香川フィルムコミッション HP (<http://www.21kagawa.com/kfc/roke/roke.php?pos=3&type=>) (2011 年 10 月 31 日閲覧)
- 4) 上甲いづみ：映像で地域の魅力を引き出したい - 四国各県のフィルム・コミッションの活動 -、西日本レポート、いよぎん地域経済研究

天野：世界の中心で愛をさけびつづけられるか？

センター、2005 年 10 月、<http://irc.iyobank.co.jp/topics/n-report/0510.htm> (2011 年 10 月 31 日閲覧)

- 5) 同会館は、2005 (平成 17) 年 12 月に庵治文化会館として、映画ファンの立ち寄り施設として、映画の撮影風景の写真や、撮影に使用された物品の展示を行っていたが、2008 (平成 20) 年に喫茶スペースとしてリニューアルオープンし、観光交流館と改称された。
- 6) 例えば、大谷・岡本・野中ほか (2008)：アニメーション作品が観光振興に与える影響に関する研究 (その 4)「らき・すた」聖地における巡礼者の人数把握方法について、日本観光研究学会全国大会学術論文集 .23、pp.361-364. など。
- 7) <http://www.y2-66.com/profile-01.html> (2011 年 10 月 31 日閲覧)
- 8) なかには、映画公開以前の日付や、複数の日付記載されているケース、調査時点では未来の日付などが記載されているケースも稀に存在する。前者は、二人のつきあい始めた日が想定され、誓いの言葉として「ずっとなかよし」「いつまでも一緒」などが付随する。複数の日付もつきあい始めた日と、懸垂日を併記したと想定されうる。未来の日付は「結婚します」など、挙式予定の報告であろうと推測されるが、記載された日付が、必ずしも懸垂日に限定されるとは限らない。しかしながら資料的制約から、これを、逐一検証することは不可能であり、本稿では記載された日付は全て懸垂日であるとして分析をする。なお、複数記載の日付については原則として、早い日付を懸垂日として採録した。
- 9) ハングルが記載された鍵は、第一次調査時点で 2 個存在し、うちひとつは 2005 年 9 月 19 日の日付が個確認される。ついで、第二次調査でさらに 2 個が確認された。韓国版映画の公開が 2005 年であることから、これに刺激を受けたのか、あるいは在日韓国・朝鮮系の恋人達によるものかは不明である。

- 10) 真鍮製の南京錠は、潮風により錆びやすく、フェンスの金網部分が、錆害により腐食していった。かつ、庵治観光交流館で販売されている南京錠が、若年層が購入しやすいように、安価な(より錆びやすい素材の)ものであったことは、この傾向に拍車をかけたと考えられる。結果的には、この誘導策は、功を奏さず、依然として皇子神社境内にも懸垂行為が継続的に行われている。
- 11) Butler,R.W.(1980)。
- 12) ちなみにホワイトデー(3月14日)には、1個しか確認されず、「愛の鍵」を懸ける行為は女性主導でなされているのかもしれない。
- 13) ⑤0394、2009年8月6日(第五次調査固有番号、懸垂日。以下同)。
- 14) ⑤0671、2008年8月2日。
- 15) ⑤0630、2007年2月28日。
- 16) ⑤0593、2009年5月5日。
- 17) ⑤0055、2009年8月13日。
- 18) ⑤0255、2007年12月24日。
- 19) ⑤0233、2008年8月29日。
- 20) 管見の限りではあるが、2009年8月以降の二人が「愛の鍵」を懸けた痕跡をたどることはできなかった。宇多津へ転勤ないし転居したが故であることを祈る。
- 21) ⑤0909、日付不明。
- 22) ⑤0839、日付不明(第二次調査初見)。
- 23) ⑤0404、2008年11月17日(第四次調査初見)。
- 24) ⑤0336、日付不明(第五次調査初見)。
- 25) ⑤0072、日付不明(第一次調査初見)。
- 26) ⑤0660、日付不明(第五次調査初見)。
- 27) ⑤0658、日付不明(第五次調査初見)。
- 28) ⑤0597、2005年5月6日(第五次調査初見)。
- 29) ⑤0656、2009年7月17日(第四次調査初見)、ほか。
- 30) ⑤0382、日付不明(第五次調査初見)。
- 31) ⑤0765、2007年9月10日(第二次調査初見)。
- 32) ⑤476、日付不明(第四次調査初見)。以後の調査では確認できず。
- 33) ●●部分は、個人名につき伏字。⑤0854、2008年11月22日(第四次調査初見)。

How can we keep shouting "Love at The Heart of The World" ? - A Case Study of continuation use "Media-tourism"

AMANO Koji

[Abstract] Aji-town (Takamatsu-city, Kagawa p.) is a place of shooting a film "Socrates in Love(Seka-Chu). As a result, the tourist involving a filming site point appeared and included Media-tourism. In this case, the statistics technique has not been established about tourists. Therefore, in this paper, it analyzed using Love-lock(the padlock that was promised "Eternal love"). Then, the following opinions were acquired. 1) The act which hangs a padlock received the stimulus of the movie and was started. 2) The act which hangs a padlock received was not maintained only by stimulus of the movie. But, the number of padlocks increased by success of the plans which the Aji Kankoh-Khoryu kan (庵治観光交流館) is concerned. 3) Love-lock is constructed repeatedly at the day of a meaning for only to two persons who loves. 4) The padlock which does not promise "love" appeared. Then, deterioration and popularization of the act of Love-lock hanging.

[Key Words] Aji-town, Socrates in Love (Seka-Chu), Love-lock, Media-tourism, Special Interest Tourism, continuation use